

小坂町の財務書類

我が国の公会計制度は、すべての収入と支出を計上した予算を編成し、その執行状況を決算としてまとめ、報告する仕組みになっています。現金主義に基づいて現金の動きを捉えたものであり、予算の執行や現金の収支の把握には適していますが、借金の増加や将来にどれだけの負担があるかなどの情報が不足しています。

そこで、従来の方法ではわかりにくかった町全体の財政状況を明らかにするため、企業会計的な手法で財務諸表を作成し、公表することが求められてきました。平成28年度決算から、新たな作成基準(固定資産台帳整備等)が国から示され、複式簿記による令和5年度財務書類を作成しましたので、全体会計の財務4表を公表します。

※全体会計とは、一般会計と特別会計(財産区特別会計を除く)及び公営企業会計

貸借対照表(バランスシート)

町がこれまでに取得した土地や建物などの「資産」の状況と、その資産を形成するための財源をどのように調達したのかを示しています。左右が釣り合っていることからバランスシートと呼ばれます。

資産の部 (これまで積み上げてきた資産)			負債の部 (将来世代が負担する金額)	
固定資産	(1) 事業資産 学校、公民館、福祉保健総合センター等	66億1,648万円	固定負債	(1) 地方債 60億8,223万円
	(2) インフラ資産 道路、橋、公園、上下水道等	89億2,388万円		(2) 退職手当引当金 5億4,880万円
	(3) 物品、無形固定資産、投資その他の資産	16億8,635万円		(3) その他 16億6,533万円
流動資産	(1) 現金預金	4億3,806万円	流動負債	(1) 翌年度償還予定額 7億9,959万円
	(2) 基金	12億7,288万円		(2) その他 1億3,228万円
	(3) 未収金、短期貸付金など	3,176万円		
資産合計		189億6,941万円	負債合計 92億2,823万円	
			純資産の部 (現在までの世代が負担した金額)	
			純資産合計 97億4,118万円	
			負債及び純資産合計 189億6,941万円	

資金収支計算書

1年間の資金の流れを、業務活動収支(行政活動)、投資活動収支(資産形成)、財務活動収支(地方債等)の三つに区分して表したものです。どのような活動に資金を必要としているかが分かります。

期首資金残高	5億5,682万円
当年度収支	△1億4,888万円
(1) 業務活動収支 税収、国庫支出金、人件費など	3億3,291万円
(2) 投資活動収支 公共資産整備、国県補助金など	1億4,830万円
(3) 財務活動収支 地方債及び借入金など	△6億3,009万円
期末資金残高	4億3,806万円

純資産変動計算書

貸借対照表の純資産が1年間にどのように変動したのかを示したものです。

期首純資産残高	106億3,699万円
(1) 財源の用途 純経常行政コスト	△55億7,714万円
(2) 財源の調達 町税、地方交付税、国県補助金	50億1,474万円
(3) その他 一般会計出資金相殺、出資金	△3億3,341万円
期末純資産残高	97億4,118万円

←歳計外現金3,012万円含む

※歳計外現金とは、給与費等から徴収した社会保険料等